



第33回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」
in 北海道仁木町



Agenda

#1
クラダシチャレンジとは

#2
7日間のスケジュール

#3
活動報告

#4
参加者の声

#5
事後報告会

#1. クラダシチャレンジとは

#1.社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

フードロス問題や地方創生に興味関心のある学生が日本全国の地域・農家へインターンとして訪れ、作物の収穫支援や現地での交流を通して一次産業や地域経済の活性化について考える取り組みです。参加学生の旅費・交通費や現地での滞在費、食費等は、地域経済の活性化と社会発展に寄与するために設立した「クラダシ基金」から支援しています。

クラダシチャレンジ実施の目的

活動中：収穫したものをKuradashiのサイト上で販売することで、新たな収益を生み出し、経済面で地方・農家を支えます。さらに、学生が現地を訪れることで町に活気をもたらし、地域の魅力を SNS等で発信することでさらなる発展のパワーに繋がります。

活動後：学生が自治体や農家の方1人1人の温かみに触れ、地方・農業の魅力を体感することで、将来のキャリア選択を通して地域に貢献しようという意識が芽生えます。

#1.社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

地域経済の活性化と社会発展に寄与するために
設立された支援金制度「クラダシ基金」



地方創生事業・フードバンク支援事業・教育事業・
食のサステナビリティ研究会の社会貢献活動に充てられます。

クラダシ基金とは

クラダシ自らが社会貢献活動を行うために
創設した基金で、ソーシャルグッドマーケット
「Kuradashi」上における支援先の1つです。

地域創生事業やフードバンク支援事業、教
育事業、食のサステナビリティ研究会の社会
貢献活動に活用しています。

クラチャレの運営費も、本基金から拠出され
ています。

▼参考URL

クラダシ基金について

: <https://www.kuradashi.jp/fund>

● #1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

「クラダシチャレンジ」の目的

①仁木町の活性化

北海道仁木町の人口は減少傾向にあり、今後も人口は継続的に減少していくと考えられています。加えて一次産業従事者も減少しており、早急な対応が求められています。

クラダシチャレンジを通して学生が作業を手伝い、商品を Kuradashiで販売することで、**農家さんの新たな収入を生み出すほか、その地域の魅力を全国に広めることで、地域や一次産業の活性化に貢献します。**

②仁木町の関係人口増加に貢献、若者を呼び地域振興に

都心の学生と地域の農家さんが共に汗を流し、熱く語り合うことができるのも魅力のひとつ。

作業を通して、生産者の苦労も含めて様々な学びを得て、農業そのものや、その地域に価値を見出す学生がたくさんいます。そして**SNSを通じてその魅力を発信することで、認知拡大や地域の関係人口の増加を図ります。**

③地域の特産品の購買促進に

仁木町には、魅力的な特産品がたくさんあります。中には、とっても美味しいのに、市場での知名度があまり高くないものも存在します。そこで、**クラチャレの活動や特産品を SNSなどでPRすることで、購買促進を図ります。**

● #1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

第33回 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 北海道仁木町

- 活動内容:①ワイン用ぶどうの収穫
 - ②現地の方との意見交換
 - ③現地観光
- 開催期間: 2023年10月12日(木)～18日(水)
- 参加人数: 4人
- 実施企業: 株式会社クラダシ (クラダシ基金にて運営)

● #1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

【仁木町とは？】



人口約3,500人の仁木町は北海道南西部に位置し、気候条件に恵まれていることから果物の産地として有名です。また、果物の町として知られている仁木町は「果実とやすらぎの里」がキャッチフレーズとなっています。さくらんぼやいちごなどのフルーツだけでなく、近年はミニトマトやワインの生産にも力を入れており、各地から注目を集めています。

【仁木町クラチャレ開催の背景】



2021年2月17日に株式会社クラダシは、仁木町と食品ロス削減に向けた連携協定を締結しました。これまでに仁木町では、2回クラチャレを実施しています。1、2回目の「クラダシチャレンジ」in北海道仁木町の主な収穫物は、さくらんぼでした。

#2. 7日間のスケジュール

#2. 7日間のスケジュール

	10/12(木)	10/13(金)	10/14(土)	10/15(日)	10/16(月)	10/17(火)	10/18(水)
7:00		朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
8:00	移動	黒ブドウの 収穫・選果 作業	シャルド ネの収穫 作業	札幌・ 小樽観光	畑のロープ 撤去作業		シャルドネ の収穫作業
9:00						NIKI Hills 三島さ んと意見交換会	
10:00						畑の支柱 撤廃作業	
11:00							
12:00						昼食	
13:00		札幌日大 中学生の サポート・ 選果作業	シャル ドネの収 穫作業		意見交換会	支柱の 仕分け作業	
14:00					仁木神社参拝・ フルーツパーク 仁木訪問		
15:00							移動
16:00	ワイナリー 見学						
17:00							
18:00					NIKI Hills職員の方 と夜ごはん	夕食	
19:00	夕食	夕食	夕食	夕食			

#3. 活動報告

#3. 活動報告: ワインブドウの収穫

ワインぶどうの収穫・畑の片付け 4日間

ワインぶどうであるシャルドネやカーディナルの収穫と畑の片付け作業に参加して気付いた点があります。

- 辛い姿勢での作業が長時間続いたため、より若い力が必要
- ぶどうの実り方が不規則かつ複雑であるため、機械での収穫は困難
- Niki Hillsが所有しているぶどう畑の総面積は7ヘクタールであり、それら全てを手作業で行うため繁忙期の負担が大きい
- 閑散期と繁忙期で作業量の差が大きく、近年は気候の変化によって収穫期間が早く短くなっている

→これら4点で、いかに人手(労働力)の需要が大きいかを体感しました。



#3. 活動報告: 役場意見交換会

10月16日: 意見交換会 at 仁木町役場

町長・副町長をはじめ、町の職員の皆様、NIKI Hillsの三島様に、仁木町の現状や、抱える課題について質問させていただきました。

特に、私は仁木町が抱える「**深刻な労働力不足問題**」を伺い、小規模かつ集約的な農業形態の脆弱性に強い危機感を抱きました。また地元JAや町が、懸命に様々な施策で対処する一方で、「**農業が就職の選択肢でない**」限り、解決しえないと知りました。

私は、地元JAが補助制度を活用して行う先駆的な人材確保の取り組みも重要ですが、「**補助金や一時的な人材に依存しない農業**」こそ、日本の農業が立ち戻るべき姿だと思います。

故に、「地元の労働力を如何に活用するか」という観点を、自身は特に重視したいと考えました。



#3. 活動報告: 観光

札幌と小樽を観光しました。緑が多く自然豊かな場所と、公共交通機関が発達した便利な都会の街が共存しており住みやすい印象で、さすが**都道府県度ランキング年連続 1位、と感動しました。**

札幌は時計台、テレビ塔、大通公園と観光地が 1ヶ所に集中していて回りやすかったです。また白い恋人パークや、サッポロビール工場など外国人観光客からも人気で1日中いても楽しめる魅力的な場所が多かったです。小樽は散策路の中に博物館や美術館も多くあり、ノスタルジックな街並みを歩けば日頃の疲れが一瞬で吹き飛びそうな美しい景観が広がっていました。

そして今回の観光を通して、仁木町への集客を見込むために必要な要素を4つ考えました。1つ目は、お店や商品が多いこと。2つ目は、公共交通機関の発達(便利さ)。3つ目は、体験施設があること。そして4つ目は、風景や景色です。

必要な部分を補いながらも仁木町の良さであるのどかな農村地域や自然環境を生かして**「都会の喧騒を忘れさせる空間」**として施設作りや情報発信ができればと考えました。



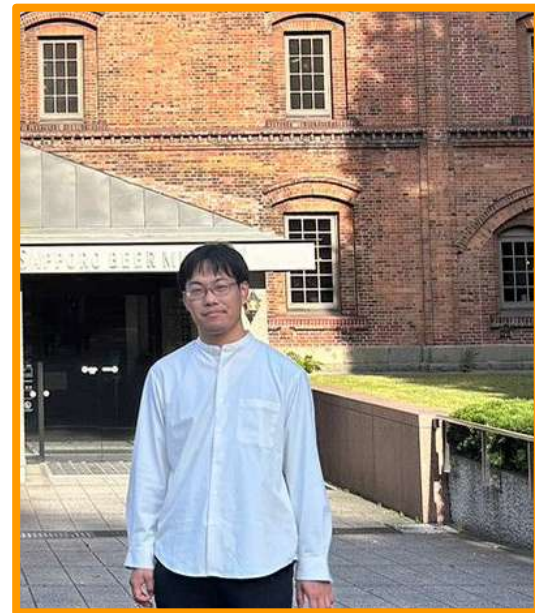
#4. 参加者の声

#4. 参加者の声①

“リアルな生産現場”を学べた7日間

私には「一次産業に貢献したい」という想いがあり、農業従事者からのお話が自身の将来に活かせると考え、本プログラムに参加しました。実際に、仁木町で初めてブドウ収穫や圃場整備を手伝わせて頂く中で、自身がいかに机上の空論に固執し、リアルな生産現場の状況を知らないかを痛感させられましたし、同時に多くの学びを得られたと感じます。“担い手不足”や“生産規模の小ささ”という問題は全国で画一的に捉えられがちですが、その要因は地域・事業者によって様々で、法人・地域ごとの価値観やニーズに沿った解決策が求められていると理解できました。

仁木町で培ったこの貴重な経験・知見を今後のキャリアに活かすことで、将来、第一次産業を通して、仁木町でお世話になった方々に恩返しできるような人材へと成長したいです。



【同志社大学4年 柳川由幸】

#4. 参加者の声②

座学では得ることのできない学び

今回のクラダシチャレンジでは、ワイン用ブドウの収穫をメインで行いました。傾斜のある畑を上り下りしながら、腰丈にあるブドウを収穫する作業はとても大変で、農家さんの苦労を実感しました。

現地で農作業を体験するまでは、機械化やCTを活用すれば省力化ができると考えていました。しかし、機械を導入するには広すぎる畑や、幹が絡まって人でないと収穫が難しいブドウを見て、機械の導入が難しいことを学びました。また、美味しいワインを作るために、多くの労力と過程と生産者さんの思いがあることを体験を通して学び、農家さんや食材の生産過程に携わる方へ感謝の気持ちが強くなりました。

今回私たちを受け入れてくださったNIKI Hillsの方をはじめ、仁木町の方は素敵な方ばかりでした。農作業や様々な方との交流でとても刺激を受けた7日間でした。本当にありがとうございました！



【愛知県立大学3年 中野稚比呂】

#4. 参加者の声③

生産者とNIKI Hills Wineryさんの熱意を肌で感じた7日間

最初はバイト先の閉店後の食品廃棄に疑問を持ち、実際に生産者様の下でどのようにして生産されているかを知るためにクラダシチャレンジに参加しました。事前準備で調べているうちに、「ちょっと価格帯が高すぎるかな」、「交通の便もあまり良くないし、観光誘致が難しいのでは？」と率直に考えてしまいました。しかし、実際に現地に訪れてみて、農作業の体験を行ったり、意見交換で職員の方や役場の方と話す事ができる貴重な経験のおかげで、これまで仁木町に愛をもって、もっとたくさんの人に魅力を知ってもらう為に行動している事に胸を打たれました。価格の背景には、忙しい毎日の中でふと心を休める特別な場所の提供という価値や、生産者の方々による朝早くからの大変な作業などがあることに気づかされました。こんなに素敵な町があるのかと知れた事が1番嬉しかったですし、また戻ってきたい大切な場所になりました。事後報告会では、みんなで協力しあいながら学生視点で面白い！とさせていただけるような提案がしたいです。



【中京大学4年 三田千尋】

#4. 参加者の声④

秘境のような農業との出会い

仁木町の存在は、クラチャレで耳にするまで全く知りませんでした。同じエリアには札幌や小樽、余市町など有名な地域名が多く、仁木町はどちらかというと、有名観光地の影に隠れた山間の土地という第一印象が強かったです。しかし、Niki Hillsのみなさんと関わっていくに連れて、土地や生産品、人柄に心地良さなど、果樹農業を通じて仁木町の潜在的魅力を体感するようになりました。一つひとつにプライドと真心を込めて作物やワインを生産している Niki Hills に感動しました。知らない土地で、初対面の人たちと過ごした7日間でしたが、訪れた人々を暖かく包み込むような体験をさせていただきました。実際に行ってみなくてはわからない素晴らしさが、仁木町にはあることを、他のみなさんにも知っていただければなと思います！



【関東学院大学4年 宮坂悠一郎】

#5. 事後報告会

#5. 事後報告会

第32回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 京都府京丹波町と合同で、参加者による事後報告会を行いました。

■日時: 2023年11月21日 16:00～17:30

■場所: クラダシオフィス・オンライン配信

■参加者: 「クラダシチャレンジ in 京都府京丹波町」参加学生
「クラダシチャレンジ in 北海道仁木町」参加学生
京丹波町の方々
積水ハウスの方々
仁木町の方々
NIKI Hillsの方々
クラダシ社員

■目的:
参加学生が、現地の方との交流・収穫支援の活動を通して見出した課題への解決策を提案する。



次のページからが
事後報告会で学生が発表したスライドです！

1. 仁木町 課題解決の焦点

1. 仁木町 課題解決の焦点

仁木町 地域課題解決のキーワード

仁木町が直面する
地域課題

人口減少

人手不足

人口減少を解決する
施策のポイント：
交流を深められる
環境を作り
町を活気づける

人手不足を解決する
施策のポイント：
労働力の
確保・導入を検討

道の駅の運用

フルーツパークにき修繕工事
に向けての提言

農業機械の導入支援

労働力補填として
収穫期の異なる他産地と連携

2. 道の駅の魅力化提案

1. 道の駅活用の提案背景

“フルーツパークにき”の抱える問題

- ・人が来ない 施設利用者が少ない
アクセス・交通の便が悪い
イベント以外で人が集まらない
- ・冬に弱い 冬に提供できる生産物・サービスが少ない
冬季の積雪によりさらにアクセスが悪い

”仁木町”や”フルーツパークにき”の潜在的な魅力

- ・有用な産業の確立 果樹栽培とワイン生産が盛ん
6次産業の活用がすでに進められている
- ・土地や立地の強み 土地面積の多くを山が占める
高速道路のインターチェンジが開業予定



新たな道の駅のコンセプト提案

季節を問わず利用できる体験施設、仁木町の魅力や設備を活用した企画

2. 天文台の設置

<年中楽しめる施設創り>

豊かな自然の中で気軽に満天の星空を楽しむ空間作り☆≡

主 体: 仁木町観光協会、民間事業者、仁木町役場

立 地: ローラー滑り台の近くにあった展望台(山の上)を改修してその上にドームを設置

季節に縛られることなく、家族や学生など幅広い年代層に楽しんでもらいたい

内 容: 可能であれば天候不順でも楽しめるようにプラネタリウムを設置
展示コーナーや映像での説明を通して学びながら楽しめる空間に

- ・外にも天体望遠鏡を置いて星空観察会を毎週実施
- ・星空写真の撮り方をレクチャーしてもらえる講座やコンテストを開催



3. ワイン観光のできる道の駅

<道の駅の魅力化>

官民連携の簡易版ワイナリー として、観光地になりうる道の駅に！

主 体：仁木町役場・仁木町の各ワイナリー（仁木町ワインツーリズム協議会）

ターゲット：観光客（特にワイン好きな方）

①ワインの共同熟成施設の設置



・冬季も集客力のある施設に

②ワインセラーの設置



・不定期でソムリエによる試飲販売

③カフェの設置



・ワイン／ジュース／スイーツを提供
・ジュース作り体験の実施

単なる販売拠点ではなく、低コストで観光客が年中楽しめる施設を目指す

4. パッケージプランの設定

〈プランタイトル〉

果物🍒 ワイン🍷 自然🌿 仁木町の魅力を堪能しつくすバスツアー

主 体: 仁木町役場、仁木町観光協会、NIKI Hills Wineryさん、仁木町の各農園の方々

ターゲット: 観光客、ワイン好きな方、家族連れ

各農園



- ・シーズンに合わせた果物狩り



フルーツパーク仁木



- ・ランチbuffet
- ・直売所でお買い物
- ・ジュース又はジャム作り体験



NIKI Hills Winery



- ・ワイナリーツアー
- ・ナチュラルガーデン、ブドウ畑散策
- ・ワインテイasting

体験×食事×ショッピング×景観
複数の観光資源を活用し、滞在する観光地づくりを図る

5. その他、道の駅の活性化案

① 図書館の設置



地元住民の新たな居場所として
コワーキングスペースのような活
用も。

しかし...

町中心部から距離があり、
利用者の増加が見込みにくい。

② 料理教室の開催



仁木町で生産された食材で、
料理教室を開催する。

しかし...

調理スペースの設置に加え、
採算性にも検討の余地がある。

③ ジップラインの設置



道の駅予定地の丘陵地形を用い、
ジップラインを設置する。
その他、アスレチックも検討。

しかし...

現在の滑り台に比べて、
安全面から人の常駐が必要。

3. 労働力不足の解決提案

1. 仁木町の農業&労働力不足について

仁木町は道内有数の農業生産地域で、果樹やミニトマトの作付け・生産量が道内ランカー位を獲得するほど。

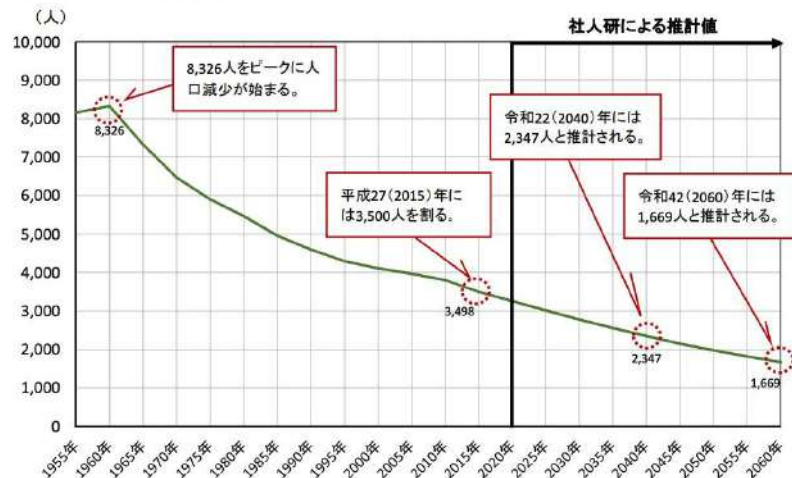
しかし...

人口減少・流出による労働力不足が問題に

労働人口の減少は地元の方からも ...



■ 総人口の推移と将来推計



資料：総務省「国勢調査」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計（平成30年推計）」

- ・若い世代の農業従事者の不足
- ・収穫時期の人手不足が顕著

● 2. 地元JAによる過去の施策と課題

【令和4年度:労働力不足の解決施策】

他産地九州のJAと連携し、ミニトマト等の収穫最盛期(8月～9月)に **繁忙閑散期の異なるエリア**から労働力45名を受入れ
(参加者の交通宿泊費は、農林水産省の補助金を活用)

課題も...



①補助金ありきの施策

:交通宿泊費を国の補助金に依存



②宿泊場所の不足

:受入れ可能人数に限界がある



③採用の負担

:毎年、募集を行う必要がある

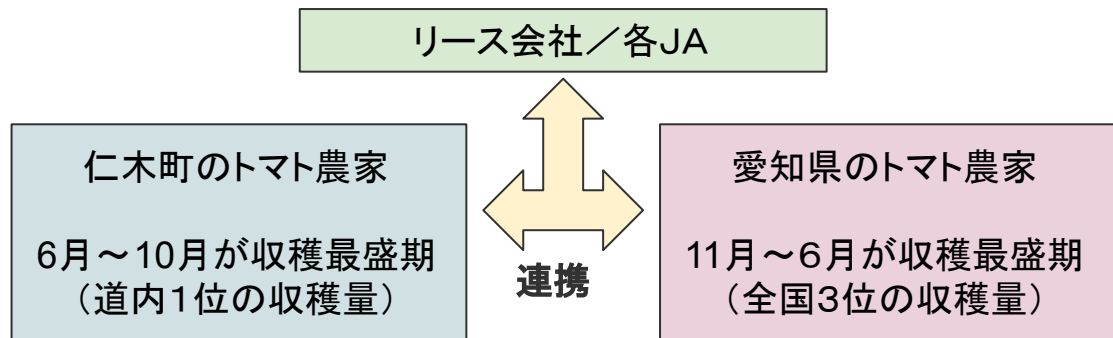


持続可能性に疑問

これらに縛られない施策が
長期的に、課題を解決する

3. 提案内容

- 提案概要 収穫期の異なる他産地とのトマト収穫用ロボットの共有
- 提案先 仁木町、北農5連、パナソニック、農協、トマト生産者
- 提案目的
 - ・機械化による収穫期の人手不足の解消
 - ・ロボットの新規導入コストの低下



収穫期の逆転を利用し、収穫用ロボットを交互にリース
 →農家の機械導入コスト低下／労働力不足解消を目指す



画像引用:Panasonic YouTube
<https://tech.panasonic.com/jp/robot/case.html>

農家が作成した色見本に応じて、
 トマトの収穫を人と同程度の効率で行える

4. 機械化によるメリット/デメリット

○メリット

- ・新規採用を行う必要がない
(農家の負担軽減)
- ・農業の雇用環境の改善
(単調な作業が減少できる)
- ・研修の必要がない
- ・夜間も稼働させられる

○デメリット

- ・ロボットの故障リスクがある
- ・導入に初期費用がかかる
- ・人と違い、収穫以外の作業ができない



● 4. 機械化によるメリット/デメリット

○収穫のスピード

手作業 ⇒ 2,3秒に1個の収穫
 ロボット ⇒ 6秒に1個の収穫だが、休みなく長時間続けられる

効率は同等か
機械のほうが速い
と仮定する。

特定技能実習生（1人あたり）**194,900円**

+

41-161万円+33-70万円

（受け入れにかかる初期費用と
 現地採用に必要な金額）

特定技能外国人の受け入れ費用はいくら？ -
 外国人採用の窓口 (gaikokusaiyo.com)

出典:厚生労働省令和3年 賃金構造基本統計調査

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzou/z2021/index.html>

・ロボット = **500万円**（耐用年数5年×年2地域【10カ月】）

⇒ 人件費(+受け入れにかかる費用)よりリース料金を設定できれば安上がり!

● 5. ブドウ畑での将来的な応用

北海道大学 大学院農学研究員 野口伸教授 「電動ロボットによるスマートブドウ栽培システムの開発」

- ・2021年から5カ年の開発計画を進める
- ・プロジェクトの第一目標は、北海道そして国内のワイン産業の振興にあり、開発機器の低価格化を目指す
- ・北海道浦臼町にある鶴沼ワイナリーで、先月収穫に成功



ブドウ畑での導入の課題



- ①ブドウの収穫時期は全国であまり差異がない(他産地との連携△)
- ②収穫・せん定という技術難易度の高さ



- ③本格的導入が2年半後予定と遠い
- ④収穫器のコストが未定

● そのほか、出された案



- ・労働力確保
- 宿舎をつくる
- 移住促進
- マッチングアプリ
(ありきたり、本当に人が集めるのか?)



- ・冬季の雇用を生む
- ヴィーガンレザー
- 除菌シート
- 美容品
- グレープシードオイル

(労働力不足解決に繋がらない)



- ・冬に作る事ができる作物を新たに生産

(全く別の品種を植えて育てるのは負担がかかる、具体案が思いつかない)

● クラダシについて

社名	株式会社クラダシ
設立	2014年7月
所在地	東京都品川区上大崎3丁目2-1 目黒センタービル 5F 代表取締役社長 関藤 竜也
代表者	ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」の運営
事業内容	https://www.kuradashi.jp/ (ショッピングサイト)
URL	https://corp.kuradashi.jp/ (会社HP)

株式会社クラダシは、仁木町以外の自治体でも支援を引き続き行なってまいります。
ご質問・ご相談等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。